

2007年度外国人研修生等助成事業 研修報告

外国人児童生徒の夢を叶えるために

(外国人生徒、保護者、指導者の視点からみた高校進学)

浜松市教育委員会 指導課 教育相談支援センター GONDO MIRTIS LIKA

日本人の子孫であるブラジル人が就労目的で来日するようになって20年、浜松市の公立小中学校には1,144人のブラジル人児童生徒が通学している。

日本に長期滞在するようになったブラジル人の子どもたちは、日本で育ち、義務教育を終え、高校をめざすようになった。高校進学は日本人の親でも大変であるが、言葉や習慣の違いがある外国人の親は何倍も大変である。年々高校をめざすブラジル人生徒が増えている一方で、高校進学についての理解が不十分だったために、進学をあきらめざるを得ない親子も少なくない。

これまで数多くの進路相談の通訳をしながら強く感じたことは、保護者と担任の間で進路相談がうまくかみ合わないのは、言葉の問題以上に教育システムの違いが大きく影響しているのではないかということである。

そこで私は、保護者と先生がお互いの国の教育システムを理解するための資料を作成すれば、保護者にとっても学校の先生にとっても役立つのではないかと考えた。ブラジル人保護者向け資料は、ポルトガル語で日本の高校進学の情報を伝えるものとし、進学準備を始める時期や進路決定までの手順、入学後に必要な費用など、できるだけ具体的で役立つ内容になるように心がけた。また、先生向け資料は、ブラジル

の教育システムや保護者の考え方について、日本との違いを中心にまとめ、ブラジル人保護者に対してできるだけ早い時期から進路指導を始める必要性を伝えたいと考えた。

現在私は、作成した資料を使って、小中学校の外国人保護者会で高校進学について情報を伝えたり、先生方の研修会でブラジルの教育システムや日本で暮らしているブラジル人の現状を伝えたりしている。日本人がブラジルへ移住後、次世代が高校や大学へ進学することが当たり前になったように、日本で暮らす外国人についても、高校や大学へ進学することが当たり前になる日が一日も早く来ることを強く願っている。



2008年11月15日に行った“外国人保護者のための入学準備ガイダンス”で外国人保護者のために、日本の教育システムについて説明をしている